

Brunelleschi, Umberto

Les masques et les personnages de la comédie italienne, expliqués par Gérard d'Houville et interprétés par U. Brunelleschi.

Paris, Journal des dames et des modes, 1914. (文献番号5-236)

Hiler p.740 Colas 1499

ブルネレスキ画

イタリア即興喜劇の仮面役者と登場人物

イタリア即興喜劇に欠かせない12名の役者を、時のイラストレーター、ブルネレスキが描いた著名な作品。それぞれの仮面役者の独特のポーズと、モダンな背景と美しい色彩が、不思議な懐かしさを覚える幻想の世界を繰り広げてくれる。

イタリア即興喜劇は、本来コメディ・デラルテ (Comedia dell' arte) と称する職業劇団で、16世紀のイタリア都市に生まれた。飛んだり跳ねたりしながら演ずる彼らの即興仮面喜劇は評判高く、国内のみならずヨーロッパ各国でも上演されていったが、わけでもフランスでは盛大な歓迎をうけ、定期的に興行されるようになった。やがて1680年にコメディ・フランセーズが開設されたのをきっかけに、それと区別するためにコメディ・イタリエンヌと改称してパリの常設の劇場を持つまでになる。しかしイタリア語に代わってフランス語が使われるようになると、イタリア喜劇本来の面白さが失われていき、18世紀にマリヴォーの作品を取り入れた頃から仮面や即興は姿を消し、品よく繊細なフランス喜劇に変わっていった。叙情あふれる仮面役者を描いたヴァトー (A. Watteau) の作品はこの頃のものである。

18世紀末以降すっかり衰退してしまったコメディ・イタリエンヌに対する関心は、19世紀末から20世紀初期に再び高まり、ちょうど演劇界に改革の気運が高まっていたこともあって、古い戯曲が発掘され、歴史研究が進められた。ロシア演劇界のコンスタン・ミックが著名な研究書『コメディ・デラルテ』を著したのも、この画集の出版と同年である。ブルネレスキは、コメディ・フランセーズの画集を出したバルビエ (G. Barbier) に対抗して、このコメディ・イタリエンヌを発表したと言われている。

16世紀のカロ (J. Callot) の版画から18世紀のヴァトーの絵画まで、仮面役者を描いた作品は数多く残っているが、ブルネレスキはこれらの作品を下地にして、コメディ・イタリエンヌの古くからのコスチュームの基本を崩すことなく、20世紀のモダンな感覚をふんだんに織り込んで描いている。12枚の絵のうち仮面を付けた役者はそれと分かる特有な身なりをしており、一方、仮面を付けない若い恋人役や小間使は最新の流行衣装を着る習わしがあって、ここでは18世紀の衣装がアレンジされている。まず老いの賢さと愚かさを合せ持つ老商人パンタローネは、真っ赤な上着とズボンに黒のマント、白髭白髪に赤いボンネットといういでたちでいわゆるパンタロン (pantalon) の語源になったほど、古来名高い人物である。同じく老人役パラゾーネはボローニヤの学者のように上から下まで黒ずくめ、白い大きな垂れ衿をつけ、大き

な帽子をかぶり、理屈を並べたてる。素早い身のこなしと間抜けぶりでコメディ・イタリエンヌに欠かせぬ役者であり、後代にまでその名を残したベルガモ出身の下僕アルレッキーノ（フランス名：アルルカン、英国名：ハーレクイン）は、多色のダイヤ柄の上着とズボンを着ける。16世紀当時はベルガモの農民のようにつぎ当てがついた衣装を着ていたが、17世紀からダイヤ柄へと様式化したもの。その他の下僕役、メッツエティーノ、ブリゲッラ、タルタニア、トリヴェッリーノは、色縞や縁取りがついた上着とズボンに白いラフをつけマントを肩に掛ける。そして名うての法螺吹き男スカラムッチャ（スカラムーシュ）は、黒づくめの服にやはり白いラフ、マントをつけて描かれる。彼らのコスチュームや仕草には、イタリア即興喜劇が経てきた歴史が染み込んでおり、現代人のノスタルジーを掻き立てるものがある。手彩色版画の効果とブルネレスキの描写力によって、それが見事に再現された作品である。

ブルネレスキ（1879—1949）はトスカナで生れ、フィレンツェで学び、パリで活躍したイラストレーターである。1912年から当時のモード誌『ジュルナル・デ・ダーム・エ・デ・モード』や『ガゼット・デュ・ボン・トン』に多数の作品を発表しているが、当画集やイタリア即興喜劇役者をテーマにした諸作品が有名である。舞台装飾やコスチュームのデザインも手掛けており、1925年から発表したポショワールによる版画シリーズでその名を不動のものにした。この画集には女流作家ドゥヴィル（Gérard d' Houville 1875—1963）がコメディ・イタリエンヌの役者が登場する「姿のみえぬひと」と題した幻想的な一夜を語る短文を寄せている。

図左はパンタローネ、図右はアルルカン。

（辻）

